

＜ 牧会ミニ通信＞No.11

2020. 7. 5.

独居老人もいかなものかと思われ、先週月曜日、月一回のギリシャ語聖書を学ぶ会に出席のため、山口市内に足を延ばしました。

沖縄県読谷村から山口市大内に移り住んだのは、13年前でした。その時以来、山口県内の福音派に属する30近い教会が加入している「山口牧師祈禱連絡会」に出席することを心がけてきました。

しかし、毎回出席はしていたものの、牧師会はこれでいいのかという思いが常にありました。連絡事項と身辺雑話に終始していることに、疑問を感じないはずがありません。

いつになったら、牧師会らしい福音とは、説教とは、伝道とは、教会形成とは何かという本質的な話し合いになるかと期待していましたが・・・、とうとう、思い余って、「ギリシャ語聖書の講読を始めてみませんか」と提案しました。すると、すぐに応じてくださった数人と始まったのが、ギリシャ語聖書の月一回の講読会です。

病院に行くとお休みマークの付いたスケジュール表を渡されます。月一回の医学会出席と記されたマークです。町医者でも絶えず学んでいます。

牧師はなおさらです。日々研鑽にはげまなければ、時代感覚はドンドンと鈍くなります。

「横浜共立女子聖書学院」の山口昇校長が、40年前わが家に突然いらして、ギリシャ語初級文法を担当して下さいと依頼されたことがありました。実力のほどなど十分ご承知のはずの方が・・・です。

牧師がギリシャ語原典から学びなおすことは、十分意義あることです。そうしたこともあり山口の4人の牧師たちとの学び会が始まりました。

今回は、三時間かけてヨハネ福音書4章のテキスト研鑽に励みました。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次